

専門家による分析結果

「学力向上について、成果を上げている学校の取組を教えてください。」
「どのような取組が学力向上につながるのですか。」

このような要望、質問をよく受けます。今回は、このような声に関する情報をお知らせします。

国では、全国学力・学習状況調査結果について、専門的な分析を行うとともに、調査結果の分析・活用の推進のための方策等について専門家による検討を行う専門家会議を設置しています。

昨年12月に報告された追加分析の中で、平成19年度と20年度の結果を比較し、学力層が変化した学校の指導方法等进行分析・検証しており、その結果を次のようにまとめています。

低学力層を減らした取組

- ・長期休業を利用した補充的な学習の指導
- ・書く習慣、読む習慣を身に付けさせる授業

高学力層を増やした取組

- ・地域の人々が自由に授業参観など学校公開日を設置
- ・職場見学や職場体験活動

低学力層を減らし、高学力層を増やした取組

- ・学校図書館を利用した授業
- ・放課後を利用した補充的な学習サポート
- ・博物館や科学館、図書館を利用した授業



※ 詳しい分析方法や結果については、文部科学省サイト内「平成20年度全国学力・学習状況調査追加分析について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/12/1217991.htm)を御覧ください。

もちろん、「地域の人々に学校を公開すれば、高い学力層が増える」といった単純な因果関係があるわけではありませんが、膨大なデータを分析した結果であるので、より客観的な傾向として捉えることができるのではないかと考えています。

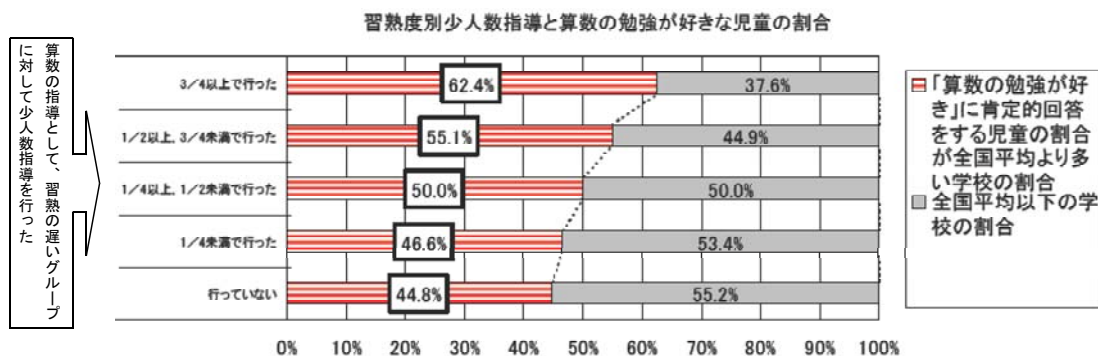
悉皆調査であること、経年比較ができることなど本調査の特徴を生かした専門的な分析が公表されていますので、各学校で活用し、来年度の取組の参考にしてほしいと思います。

習熟度別少人数指導の効果

専門家会議では、算数・数学における習熟度別少人数指導についても分析し、次のことが確かめられたと報告しています。

- 低学力層を減らし、高学力層を増やす効果があること
- 学習に対する関心・意欲・態度を高めること
- 必ずしも自尊感情を傷つけるものではないこと

詳しい結果等は、文科省HPを御覧いただくと分かりますが、前述した項目を裏付けるデータを一つ紹介しておきます。

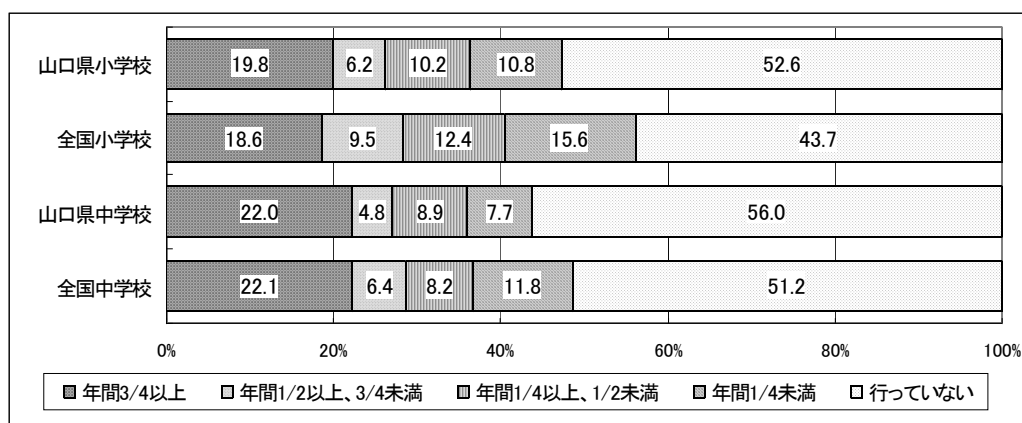


山口県の状況は さて、ここで、習熟度別少人数指導について、山口県の状況をみてみましょう。平成20年度全国学力・学習状況調査における学校への質問紙調査の結果をまとめたものです。

習熟度別少人数指導（習熟の遅いグループ）の実施割合

※質問 47

算数、数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか？



規模ごとの学校数の割合が山口県と全国とで異なることも考慮する必要がありますが、算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行った学校の割合は、全国に比べて低い傾向がみられます。「算数、数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか」という質問に対しても、同様の傾向がみられました。

各学校で工夫を 先日ある学校を訪問し、算数の授業を参観させていただきました。その学校では、学年2学級を3グループに編成して授業が行われました。学習内容は、全てのグループで共通しているのですが、取り扱う数値をグループによって変えるなど、グループごとに違う教材を作成され、子どもにとって分かりやすいよう工夫がみられました。

学校によって状況が異なりますので、同じような形態で授業が行えるわけではありませんが、それぞれの学校で取組の工夫をすることが必要ではないかと思えます。